

【日本の技能実習生制度に思うこと】

加向建設株式会社フジ・チューン・ドゥック

今思うことは、技能実習生を希望したことは、私の人生をよい方向へ決めたと感じます。

仕事の中でも、建設型枠を希望したのは、ほかの仕事に比べて母国との技術の差が大きく、母国に戻ったとき、役に立つと考えた。

日本に来て最初は、日本語はむずがしくて、ホームシックにもなりました。

今は日常会話はだいたいできます。

むずかしいのは、漢字です。

毎日の仕事は面白いです。加工図・製材・加工・建込・シメ方色々教えてもらいます。

日本の仕事のよいところは、建築技術は、

もちろんですが、「安全」の考え方がよいと思います。安全にたいへんきびしいですが、自分が安全な行動するのは、自分のためだけでなく、仲間・家族・会社色々のためです。

それで建物ができるのです。また、仕事で学んだのは日本のきもち・心・気の使い方・

カケゴ工ほか色々うまく言えないことが、

仕事で大事です。母国で使いたいです。

会社は、色々な資格を取らせてくれます。

フォークリフト・玉掛・丸鋸・高所・感電・

N3級他今からも、沢山あると思います。

今年は型枠2級とN2級をめざしたいです。

日本の文化・習慣も、もっと知りたいです。

会社は、親切です。シオヒ狩り・魚つり・B

BQ・ソーメン・鍋・安全祈願・雪の白川郷

など色々なことをしてくれます。

今からの私の希望は、型枠2級・型枠1級

に合格して、特定技能2をとって、日本と母

国どちらでも、仕事をして、母国へ新しい技

術と孝え方をつたえたいです。

技能実習生を希望した時に、孝えました。

お金は使えば、なくなります。でも、技能実

習生制度で得た、日本語・技術・知識は、残

ります。だから「私の人生を良い方向へ進め

てくれた」と思います。